

学校体育に寄せる期待……

八重山地区小学校体育研究会会長
(竹富町立上原小学校学校長)



吉濱 剛

今回の実技研修は、新型インフルエンザの流行で研修開催が危惧されましたが、参加者のご理解とご協力により実施することができました。

研修は、新学習指導要領による内容の中から体づくり運動を取り上げ、多様な動きをつくる運動を紹介しました。このような運動を取り上げられた背景には、運動をよくやる子とやらない子の二極化が進んでいることや体力の低下があります。

本来、子どもは体を動かすことが大好きです。また、この時期の発達の特性として、いろいろな体の動きを獲得することによって、ぎこちないからだの動きから、口なやかな体の動きへと変容していきます。

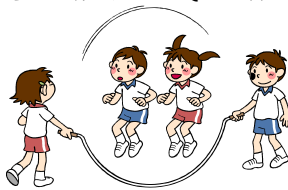
今回紹介された多様な動きは、私たちの世代の子どものころは、山や川、野原、木登りをして「ダンナー」(基地)づくりなどの遊びの中で獲得されてきました。しかし、社会の構造の変化とともに子ども本来の成長の場「時間・空間・仲間」が狭められてしまいました。

このような社会や子どもの実態から学校体育に寄せる期待は、大きいものがあります。指導要領になぜこのような運動が取り入れられたのかを理解して体育の授業に臨むことで、授業の方向性が見えてきて授業改善へとつながります。

体育は、体づくりと同時に心づくりでもあります。私たち教師自身もしなやかな体としなやかな心を持ち子どもと接していきたいものです。

今年度は、実技研修と授業研究を行い、今後も「運動と健康」について実践研究を進めていきます。

本研究会は、八重山地区における小学校体育の授業に寄与するため、これからも実践的な研修を企画していきたいと思っております。是非、研修に参加してたくさんのヒントやアイデアを生かして、子どもたちにより楽しい授業を提供してほしいものです。



八重山地区小学校体育実技指導者講習会 「体づくり運動」「多様な動きをつくる運動」

講師◇新垣三貴子先生(新川小) & 仲底美香先生(平真小)

小学校体育研究は、八重山地区の子ども達へ、より一層充実した体育学習を提供していくことを目指し、毎年、学校体育実技指導者講習会を開催しております。

昨年度は石垣小教諭・宮良善起先生等を講師に、器械運動実技講習会が開催されました。

今年度は、五月に長崎県にて開催された西部地区学校体育指導者中央講習会(文科省主催)に参加された新川小教諭・新垣三貴子先生による新学習指導要領の下での体づくり運動・多様な動きをつくる運動(伝達講習を夏休みに行いました。新鮮、かつ具体的な指導実践の事例の紹介と、共に参加した約六十名の先生方が、運動不足の体にむち打ちながらも、笑顔と共に、講師の三貴子先生と講師助手の平真小教諭・仲底美香先生から次々と紹介されるいろいろな運動に挑戦していました。

等々を積極的に取り入れ、ペアもしくはグループ構成の下、運的要素や「協力」をアクセントにした運動では、まさに多様なかわりと多様な動きが見られ、かなりの盛り上がりを見せていました。

本研究会では、このように、会員の先生方をはじめ、本地区の先生方の要望等を可能な限り集約し、定期的に実技講習会や公開研究授業をこれからも開催していきます。

その際には、より多くの先生方と、日常の体育学習における指導上の悩みや成功例等の情報等を交わしながらの展開を大切に、参加して良かったあ、「と言ってもらえるような講習会を目指していきます。

講習会の開催に関するお知らせは、小体研発の公文や事務連絡、ブログ(近日開設)等で行います。何らかの形で講習会に関する情報が入った場合は、遠慮することなく、お気軽にご参加下さい。

実技講習会スナップ



新学習指導要領における体育学習

八重山教育事務所指導主事◇大浜 讓 先生より

夏休みに行われた八重山地区小学校体育実技指導者講習会の中、八重山教育事務所指導主事の大浜讓先生をお招きして御講話を頂きました。

新学習指導要領における体育学習」と題してのお話から、平成二十三年度から本格的に実施される新学習指導要領の下の「体育科の目標」等について非常にいいねいことが出来ました。

お話の中、新学習指導要領「体育科の改善方針」として、

その課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視している。」と提示した上で、その課題」とそれらを受けての新たな視点」を左記のように示して下さいました。

- ◆課題
 - ① 運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向
 - ② 子どもは体力低下傾向が依然深刻
 - ③ 生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の育成が不十分
 - ④ 生活習慣の乱れが小学校低学年から見られる
- ◇新たな視点
 - 学習したことを、学校以外の生活の場で生かす(生涯スポーツにつながる視点)
 - 小・中・高校の滑らかな接続を図る。
 - 発達段階に応じた指導内容の整理・明確化を図る。

さらに、今回の実技講習会の内容として展開された「体づくり、多様な動きをつくる運動」についてもその意義等についても具体的に触れて頂きました。

その中、多様な動きをつくる運動については、左記のとおり、他の動物とは比較にならないほどの多様な動き習得する「機会である」と示された上で、「Eトとして習得すべき内容である」と話されました。

◎ 体のバランスをとる運動」
↓重い頭部を持ち上げるためのバランスをとる。

◎ 用具を操作する運動」
↓石器をはじめ、様々な用具を操作する

◎ 体を移動する運動」
↓環境に応じて多様な移動形態で全世界を移動する。

◎ 力試しの運動」
↓環境に適應し、己の力を試す

その他、ボール運動系の改善点や、保健の改善点についても触れて頂きました。

また、体育学習の捉え方として、これまでの体育の授業を「みんないっしょ」の「習得型」として上で、これからは「みんなちがう」の「活用型・探求型」という表現で端的に示して下さいました。

講話のまとめにおいては、体育学習の「究極の目標」は、現在及び未来ともに、楽しく明るい生活を営む態度を育てる「ことである」とし、体育学習の指導に際しての方向性を明確に述べられていました。

活動報告① 体育・スポーツ推進校研究発表

去る十一月二十四日(水)に与那国町立与那国小学校にて開催された沖縄県教育委員会指定研究「体育・スポーツ推進校研究発表」に、本研究会からも会長、副会長他一名の会員が参加しました。

活動報告② 県学校体育研究発表会

先月の二十七日(金)に開催された沖縄県学校体育研究大会において、本研究会理事長の高木健一郎先生(石垣市立明石小学校教諭)が、昨年度の本研究会で実践したフラッグフットボールの授業をベースにまとめた研究成果を誌上発表として公開して下さいました。

これを機会に本研究会の取組成果が広く伝わり、他地区小体研との情報交換等が、より円滑に進んでいくことと思えます。

健一郎先生、おつかれさまでし。



一昨年の実技指導者講習会において講師を務めて下さった筑波大学大学院准教授の松元剛先生(写真右)、日本フラッグフットボール協会学校教育部長の小川昭彦氏(写真中)に、筑波の地にてお会いすることができました。(写真・筑波山)



編集後記

近日開催!
現在、本研究会では主催行事(講演会もしくは実技講習会)を計画中です。具体的には後日お知らせ致します。

体育学習の在り方を再認識...



体づくり運動は、小学校体育においてももっとも基本となるものだと思います。

今回の講習会にも、すぐに実践したい、という決意にも似た強い気持ちを持って臨みました。

高学年ともなると子ども達は、競技的な要素の入った内容に熱くなる傾向にあり、つついそのような要素を授業に取り込みがちです。しかし、今回の講習をとおして再認識したこと

は、「体づくり・多様な動きをつくる運動」においては、やはり体育学習が必要とされるバランス感覚、柔軟性、瞬発力といった様々な身体能力を遺憾なく発揮できる、とますます素晴らしい運動だと、改めて実感できたという事です。

また、学習形態にペアや大小のグループを取り入れることで、ほぐしの要素を加え、より活発な動きや気付きを生み出すことのできる可能性を肌で感じる事ができました。

今回の講習会で私自身が得ることのできた「楽しさ」と「充足感」を一日でも早く子ども達へ伝達したい、という強い気持ちと共に学びを終えることができました。次回の講習会を楽しみにしています。ありがとうございました。

